

## 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人リバリューライフ
活動名	対等・水平な関係での対話を通じてつながる声・ひろがる未来
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 人間分野
<b>事業の目的</b>	
<p>昨年度は「対等・水平な関係での対話」を継続的に実践してきました。その中で、地域社会にはこのような対話の機会がまだまだ少ないことを改めて実感しました。対等・水平な関係が築けていない状況では、相手の本当の気持ちに耳を傾けることが難しくなります。この課題を解決するために、オープンダイアログが目指す「対等・水平な関係」を広め、多くの人がある在り方を志向できる場を提供していきます。また、さまざまな体験を共有する「つながる声」や「リカバリーストーリー」の公開する場を設けます。さらに、この「つながる声」を地域全体に広げていくため、多様な人々の声に触れる場として「拡がる未来」の場をつくり、この取り組みを通じて、さまざまな立場の人々が存在していることを肌で感じ、地域の人々が対等・水平な思考を身につけることを目指します。そのために法人の社員を中心に、運営自体も対話的運営を心がけ、事業運営自体も対等・水平な関係で実施していきます。</p>	
<b>事業で取り組んだ地域や社会の課題</b>	
<p>オープンダイアログの手法を身につけた人が増えたことで、日常の支援業務における対等・水平な関係構築が進む可能性を見いだしました。この手法により、支援者と支援を受ける人との間に信頼関係が築かれ、より効果的な支援の提供へと繋がっていくことが期待されます。また、「つながる声」や「拡がる未来」の場を通じて、地域の人々が対等・水平な思考を身につけるきっかけを提供できる可能性を感じました。「リカバリーストーリー」の公開は、現在苦しんでいる人たちに「自分には価値がある」という勇気を与え、社会で活動する新たな機会を得る事に繋がっていくと考えています。さらに、対等・水平な関係は個人間だけでなく組織間にも広がる兆しが見え、地域全体で不平等をなくす機会となり得ることが分かりました。地域の人々が互いに協力し合い、共に地域の課題を解決しようとする活力が向上していくことで、誰もが排除されることなく安心して住み続けられるまちづくりへと繋がる可能性を見いだすことができました。当法人のスタッフが対話的運営を実践した事も成果の後押しとなり、多様な人々が共に生きる社会環境の創出への可能性を感じています。</p>	
<b>取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</b>	
<p>以下の5事業を実施しました。</p> <p>①「つながる声」: 様々な体験を持つ人の話を聞くことと話すことを切り分けて共有する機会を持ちました(オンライン開催で計4回、39名参加)。</p> <p>②「拡がる未来」: ①で話した4名の話と同時に聞き、多様な存在を肌で感じる場を設けました(川越市南公民館で1回、6名参加)</p> <p>③「リカバリーストーリーのコンテンツ化」: 不登校等の経験を動画で四本作成し、当法人ホームページ及びYouTubeで公開しました</p> <p>④「オープンダイアログ実践勉強会」: 対話の基本姿勢を学ぶ場として計9回実施(43名参加)しました。当初は近隣対象でしたが、千葉や神奈川等遠方からの参加もありニーズの高さを実感しました。⑤「オープンダイアログ研修会」: 森川すいめい氏を招き本格的な研修を1回実施(20名参加)しました。地元埼玉だけでなく宮城県からの参加もありました。これらの事業は、当法人の多様な体験や専門性を持つ社員が対等な関係で事業執行を担いました。</p>	
<b>事業実施により達成した成果の具体的な内容</b>	
<p>オープンダイアログの手法を身につけた人が増えたことで、日常の支援業務における対等・水平な関係構築が着実に進みました。この手法により、支援者と支援を受ける人との間に信頼関係が築かれ、より効果的な支援の提供が可能となっています。また、「つながる声」や「拡がる未来」の場を通じて、地域の人々が対等・水平な思考を身につけるきっかけを提供できました。「リカバリーストーリー」の公開は、現在苦しんでいる人たちに「自分には価値がある」という勇気を与え、社会で活動する新たな機会を得ることに繋がっています。さらに、対等・水平な関係は個人間だけでなく組織間にも着実に広がり、地域全体で不平等をなくす機会となっています。地域の人々が互いに協力し合い、共に地域の課題を解決しようとする活力が向上した結果、誰もが排除されることなく安心して住み続けられるまちづくりへと繋がりました。当法人の多様な体験を持つスタッフ自身が対話的運営を実践したことも事業成果の後押し、社会全体が強い包容力を持ち、多様な人々が共に生きる社会環境を創出しました。</p>	

<b>費用面での工夫</b>
助成金(448,000円)を最大限に活かすため、各事業の会場には川越南公民館やふじみ野市西公民館などの公共施設を積極的に活用し、会場費を総額8,100円という少額に抑える工夫をしました。また、「オープンダイアログ研修会」と「実践勉強会」では参加費を設定して事業実施による収入(計56,000円)を確保し、自主的な事業運営を心がけました。さらに、動画編集や撮影作業、勉強会の内部講師などは外部業者に委託せず、当法人の多様なスタッフが元々持っている力を発揮して、それを再価値化していくという法人の離縁の具現化も含めて人件費として処理し、費用対効果を大幅に高めました。
<b>地域社会への還元</b>
様々な生き方を理解し、対等・水平な関係を構築する思考が地域に広がることで、誰もが排除されることなく、安心して住み続けられるまちづくりの推進に大きく貢献できる可能性を見いだしました。オープンダイアログを志向する人が増えたことで、支援者と支援を受ける人の間だけでなく、人と人、組織と組織の間でも対等・水平な関係が広がり、地域社会に根強く残る不平等をなくす機会になり得ると実感しています。また、様々な人の生き方を見聞きする機会を通じて、今苦しんでいる人たちにも勇気づけを行い、自分自身にも価値があると感じていただき、その価値を社会の中で活かしていくための新たな活動へと繋げていく手応えも得られました。こうした一連の取り組みにより、地域の人々が互いに協力し合い、共に地域の課題を解決しようとする活力が向上していくことで、社会全体がより強い包容力を持ち、多様な人々が共に生きる社会環境、すなわちSDGsの目標達成に向けた土台作りに対しても、大きく寄与していけるものと確信を深めています。本事業で得られた経験や成果を活かし、今後も対話の輪を広げていきます。
<b>今後どのように事業を継続し発展させるか</b>
オープンダイアログの実践思考を地域にさらに広め、興味関心を持つ人を増やすことで、今後は実践勉強会を自主勉強会のような形で継続・発展させていく予定です。関心が高まり学びたい人が増えれば、助成金に頼らずとも参加費のみで講師を招いた研修会を自立して開催できると考えています。また、「つながらる声」「拡がる未来」「リカバリーストーリー」の活動については、動画コンテンツの作成を同時に進め、視聴者数の増加を目指します。今後はプロボノ等を積極的に活用して動画の質を向上させるとともに、動画内に協賛企業のロゴを入れるなどして新たな事業収入を獲得し、助成金に依存しない事業基盤を確立します。当法人の専門性や体験を持つ社員のノウハウも最大限活かして地域住民や企業との連携を一層深めることで、対話の文化を根付かせます。排除のない社会づくりという目的の継続的な達成に向けて取り組みを進め、対等・水平な関係の構築を通じて地域社会の課題解決に貢献します。

## 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人リバリューライフ

### 1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	448,000	448,000	0	
自己資金	3,280	23,175	19,895	
活動実施による収入等	56,000	45,500	△ 10,500	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	507,280	516,675	9,395	

### 2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	8,100	8,900	800	
通信運搬費	990	660	△ 330	
旅費交通費	5,000	2,460	△ 2,540	
消耗品費	19,050	16,651	△ 2,399	
備品費		0	0	
委託費		0	0	
謝金	225,000	220,000	△ 5,000	
人件費	244,500	266,000	21,500	
その他	4,640	2,004	△ 2,636	
支出の部 合計	507,280	516,675	9,395	